續一切經音義全

中村俊定文庫
文庫 18
627

續四季仙序

今ハ十七年ものたのし
蕪村樗良の二更とそ年
嵐山の月の小路乃橋居して
百鬼夜行の来詩とゝ
い[illegible]の更耳おとろ
あれいきしを四吟法りのおの
みのハ遠と紙[illegible]勝和の四季

俊宝藏

仙となり給ふる迄書林はの
木このはなしてせいひろし侍も
絶るこ三老も既こ没して我猶
存せり爾年此ころ尾さきの曉臺
嵯峨の花ちるの里こ浴こ生こく
さらに乃書羅加茂の口ちゃんむ
とてこれも都こ住ひあるこの
行る日椎本町の月渓の旅宿こ
前あひめこ余鶴をとらしやや
此流をこ添こあやしの樓の
このはもかの老婆子の化こ紘
妻なるこ戯れさやらへこ
あるこ眉を書こ月
その妖怪のこあるこ醒せり
とこに技よ蚊帳こ入こ
清寝せんあるこ二客を

くれのやすの筆硯をとりて
再ひ一東四季の仙の梅を真れる
事なり待りあ

東半亭九董書

天明七丁未孟夏上浣

京都府立図書館

其一

埋もれてあるけふの四月哉　曉臺

飛蟻もある日乃晴こそるよさ　九董

遠騎こゝおの〻風情やなこそん　月溪

咲てちつこの〻梅散しけり　青蘿

春の暮春の泊て酒貫て　董

波の浮朝よるとんしこの　臺

中村俊定文庫

能とこの影ハかきけた山庵　蘿
うつの飯鳴ふ布さまよ　渓
紅このかの色乃裏田〜苔(コモク)庵　臺
廊をあけた奇のあのつよ　菫
部屋乃をかくした袖乃月　渓
須磨の並私風の色秋　蘿
虚鋼ゝ鶯の色なのうう　菫
味ゝ登した伊達の義元　臺

打もよ〜本周庵の仮ものう　蘿
秘ゆか〜書をとと字とる　渓
花ゝ對〜てうつ〜樓の夕鼓　臺
普茶の崩さの瞰ゆさ〜鼓　菫
巣の蜂の怒すゝ〜飛立て　渓
美人〜死〜ほあとの義　蘿
あさかと墨の秋ゝ世とのの　菫
伶(コヒ)の役ゝハとをさ〜ゆよ　臺

〻〻雪 称の筋〻添り 蘿
狸乃頃となり 賣家 渓
さ〻〻の人の情も負たる 臺
我此旨を神もけ 菫
これ〻さへ今も古具足 渓
此分の荒も塩飽七島 蘿
弓張五更の天ハ澄り 菫
こゝろのまゝ院参の 臺

機の片足乃もとの〻櫃〻 蘿
こゝ〻〻多〻〻憎まれ者 渓
一の滝も二の瀬も高き星ぬり 臺
芦のとりて炬火〻〻次 菫
米五石舂て〻花〻神乃能 渓
家〻ハ宿法〻ま蕨 蘿

もの散るふもとをうつて
ゆく春ハ我身をふる
うつゝやいく世をかの鼻たら　青蘿
哀よ鳥の寝ぬるも有る音　月溪
江乃枫ゑれ水井深ゝ分る音　九董
門ゝ入て中ゝ秋の風　暁臺
番匠乃鳥をそろゆる秋乃月　溪
剛殿蒸ゝ配る辰の日　蘿

足利のあゝハ志のふむの涙　臺
わりなよ恋を寺へ祈る　董
名起をひゝ仕ふのきゝ　蘿
よる庵ちゝあれ蜘の糸ちる　溪
筆工の筆干ゝるやゆ　董
野走あの雀賣て行し　臺
おゝのゝハ元て志ましの髪　溪
二ゝ殿あの春ハ殿の媒　蘿

春あけてこのけふ園のみれ咎　臺
旅のやどりまく人磨忌して　菫
世之二の元を尋ふ土佐泊　蘿
八日のあこのき雨ちこ九月　渓
矢軍る船奴の砦もあけも　菫
泥を踏あけの使つくひ　臺
祐天の雲を志つく堀居て　渓
をくまつ雪の紅梅　蘿

さくひく扇のおりて白ふく　臺
放下の娘みやひしろう　菫
七ツ〻上野鐘やはるや　蘿
鳥を木ちも吹まふ風　渓
目の前る物盗ふ太ハ非人と　菫
二階の裸火矣ひる　臺
追善千淨りの月　渓
不津を乙も綿の上化　蘿

秋の雨大炉の局下居して　臺

馨うとてくらを蒼太さく　菫

剛殺に猿の毛生ゑ形り　蘿

降さまを色をこの里の神　渓

花とさ次藤のらろの逆梅　菫

興ゐおぼろる琵琶借つ　堇

其三

雨そよもあるも雨あそて文乃月　月渓

田中の松よ出ゑる声　暁臺

簾捲ぼ夢の宿つ碁を打て　青蘿

水風呂ゆるく皆嘘ひろ　九董

陣縄て馬衣の湿りのけわさ　臺

模へ蔵し　雷のあと　渓

大宮司の白き髭を撫て着て　董
嬉しんで来る人と共にて　蘿
音〳〵の躍おどりよまこうらく　溪
新浮船の戯きゝ　臺
待合に船の立ちたる乃立ち　蘿
如あるゝの眼鏡のひつゝ　董
灌頂を大日庵の新に来て　臺
そのよの薬の香る白く苞　溪

小地炭ゝ[illegible]の初雪きえ孤　董
焼もんだ自刑ける窓　蘿
死ナて居る甚きゝ[illegible]の比　溪
ゝゝハ照る日もさえ[illegible]る　臺
畑打も黒津の里の川普請　蘿
古の茶釜あ汲ひて　董
雑の茶屋さらく深て　臺
ゝるもとも[illegible]入梅の夕栄　溪

築地の女ども三線習ふ小船路　菫
女竇の嘘の合ゐをはつる　蘿
口切や淀屋の風をかのもの　渓
さらさらとのの色をよぶころ　臺
逝くものはかくのごとき最上河　蘿
鬼やらん君の位を半ば　菫
あらうものまこと妖の前　臺
詩もさすがに家の半部　渓

伸びのびのあり〜〜撼（カン）しお宴咲　菫
文珠をもすりる暦所賢しよ　蘿
修羅の油あやまつとの暮　渓
小石小坂乃風を押す　臺
花すすき駕の戸をゆ朝　蘿
春閑れる炉の埋火　菫

苦哉名利人
樂矣乞兒身

乾鮭干名利のあるかなかり　九菫

世ふ裸身の雪や霰や　青蘿

物倉乃あるふ志ろ犬吼て　暁菫

小松のすゑ落るあるか　月渓

うつゝもれ市の夢麻　肌寒く　蘿

秋子のされこ柳こ集ふ　菫

こゝゝと板間へ潜る古鼓　渓

蹈ゑの春を神もわすん　菫

藤分て我より先の人　菫

待よ運て抜きあつ者ア　蘿

玉緒の茅人懐ゑ包て　菫

雨暗りして明る短夜　渓

きゝ残る火串の通り腥く　蘿

多ふふよふ倉津根を越　菫

懐の鏡くらぶてうつるのも　渓

清廟中の原蒲公英の絮　臺

初ふかし池の新緑の月　菫

咲をくれさしみもなるみて　蘿

春雨稽古の西女世をいとく　臺

うるさきなる離騒はる　渓

國替は百里内らく駕の旅　蘿

幾の白さの我く驚く　菫

碁をうつて童子の汲る雫深く　渓

水の節のうす白く風蘭　臺

酒涼し石の苔なる湖水　菫

氣ふつて添て配る木枕　蘿

月の影の妹の霄工み　臺

月の杉清水の月の影　渓

騎もれ芦毛の駒の萩を踏　蘿

京の公離つてゆく河　菫

五百年鉦鼓うつ時る常念佛　溪

あさ秋深女の髪のしつかなる　臺

施餓鬼の寺扇のたしつ手をあてし　菫

鳥啼　素の寺あのつゝの元　蘿

砂川の流る深い色一座　臺

行沙弥あるる　佛説の春　溪

京寺男五條上ル　田中庄兵衛板

大阪心齋橋筋安堂寺町　大野木市兵衛

江戸通本町　西村源六

謝恩會出席者芳名

昭和十六年九月

俊定次郎

原本松平文庫